



言葉にする、声にだす

筑西市立下館南中学校 3年 高崎 利基

蛇口をひねれば、水が出る。のどが渇いて、それを飲む。日本では当たり前光景が叶わない国があると知っていた。しかし、それは、ずっと遠い国のことだと思っていた。

「水道水は飲めません。」初めて日本から出る僕にとって、これは衝撃的な言葉だった。理屈がわかっているのと、現実として目の当たりにするのではやはり違う。都市に住む人は、水道の蛇口をひねって安全な水を飲むことができる。一方で、地方の人々はそうはいかない。水をそのまま飲むのは危険なことで、下痢の原因になることもある。下痢になれば脱水症状を起こし、それが命に関わる可能性も出てくる。だから必ず煮沸しなければならない。

僕は、モンゴルで友達ができた。かわいい、幼い女の子だ。僕は日本で安全な水を飲むことができるけれど、彼女に安全な水は保障されていない。僕と彼女の命の重さは同じはずなのに、貧富の差が押し掛かる。安全な水が手に入れられることは、人権の重要な一部だ。

モンゴルでは今、すべての人が安全な水を手に入れることができるよう、日本の支援の下、研究が進められている。世界に目を向ければ、安全な水を手に入れることができない人がもっとたくさんいる。世界中の「彼女」のために、僕は自分の見てきた現実と想いを言葉にしよう。たくさんの人に伝えよう。何かを成し遂げるとき、それにはたくさんの協力が必要だ。そして、それはいつだって一人の声から始まる。